

# 子どもの表象性理解の発達 ——幼児期を中心に——

《日 時》 2026年 **3月8日** (日)  
10:00~15:50

《講 師》 **木村美奈子さん**  
(名城大学教授)



《形 態》 ハイブリッド開催 (録画配信はありません)

《会 場》 コラボしが21 3階中会議室  
(滋賀県大津市打出浜2-1)

《ライブ配信》 ZOOMミーティング

《参加費》  
一般 6,000円  
会員 5,200円  
25歳以下会員 4,000円

※1999年4月2日以降生まれの会員

※同時入会で会員価格で受講できます

《定 員》 80人

《申し込み》 QRコードから→



主催：人間発達研究所

電話：077-524-9387

Email：j-ih63su@j-ihd.com

人間発達研究所

## 講義概要

本集中講義は、子どもの表象性理解の発達をテーマとし、写真や映像といった外的表象に対する幼児の理解のあり方を手がかりに、子どもの認知発達について考察するものである。子どもが映像の中の人物に話しかけたり、写真に写るモノの性質を現実のものとして判断したりする行動は、単なる現実との混同として捉えられがちであるが、実際には表象性理解の発達過程に位置づけられる重要な現象である。

本集中講義では、講義担当者がこれまで取り組んできた、写真や映像を用いた外的表象理解に関する研究を紹介しながら、幼児期における表象性理解の発達について検討し、あわせてその意義や解釈について講義内で議論を行う。具体的には、写真や映像を用いた複数の実証研究を取り上げ、子どもが「代理物（表現するもの）」と「指示対象（表現されるもの）」との関係をどのように捉えているのかを分析する。

これらの検討を通して、幼児期の子どもは、代理物と指示対象を明確に分離して理解しているのではなく、両者が渾然一体となった世界を生きているという発達的特徴を明らかにする。さらに、こうした知見を手がかりとして、デジタルメディアに囲まれた現代社会において、子どもと映像メディアとの関わりをどのように捉えるべきかについて、理論的・実践的観点から考察を深めることを目指すものである。

## タイムテーブル

10:00	開会挨拶 講師紹介
10:05 11:35	講義 1
11:35 12:35	休憩
12:35 14:05	講義 2
14:20 15:30	講義 3

## 講師プロフィール

愛知県生まれ。名古屋大学大学院博士課程修了。愛知県立大学、名古屋芸術大学を経て、2017年度より名城大学。2024年度より名城大学教職センター（兼任）大学院総合学術研究科教授。

専門は発達心理学。研究テーマは、子どもの外的表象理解の発達に関する実験的研究。第17回日本発達心理学会学会賞（2008年）、名古屋商科大学 Teaching Award（2009）受賞。

## 参考文献（事前の学習は不要です）

木村美奈子（2011）．映像やメディア理解をめぐるゆれと発達．木下孝司（編）子どもの心的世界のゆらぎと発達—表象発達をめぐる不思議（pp.117-142）．京都：ミネルヴァ書房．

齋藤亜矢（2014）．ヒトはなぜ絵を描くのか—芸術認知科学への招待．東京：岩波書店